

なすから名を得たといふ。後世金澤にも産し、仙翁の滴りが流れ入る尿川の河水を汲んで餵したから、この名があるといふのは附會であらう。又北國巡杖記に淺野川としてあるのは誤である。鶴來の産が金澤よりも古いことは、言繼卿記大永四年四月十九日の條に、「阿佛房菊酒皆々に可中候由候。」とあつて、これは白山宮所屬の阿佛房が京に菊酒を齎して人々に振舞つたといふ意であるによつてもわかる。

キクザケコウ 菊酒考 一册。宮田景周著。文政六年成る。石川郡鶴來村に醸造する菊酒に就いて、諸書を引き白山比咩神社の祭神菊理媛命との關係を説き、又尿川を菊水川或は菊潭と稱することに就き考證したもの。藩の老臣村井長道の跋がある。

キクジツカセン 菊十歌仙 一册。越前の伴人伯菴が、正徳四年菊月山中温泉に遊んで、一日から十日まで毎日歌仙の俳諧を興行したのを集めたのである。その作者には小松の隱生・朴人・乙甫・之川・之仲・里冬・宇中が参加してゐる。序は支考の選。

キクスイガハ 菊水川 ↓ **キクタン 菊潭**。
キクソノイホウ 菊園遺芳 一册。田中躬之著。著者は歌學に長じ、皇學に委しかつたから、歴史・物語を引證して種々のことを考證したものである。安政六年十一月狩野野友の奥書があり、明治十五年二月横山政利の漢文の跋がある。

キクソノカシユウ 菊園歌集 一册。田中躬之著。著者の遺稿を、門人高橋富兒が、明治三年十一月増補類聚したものである。
キクダタネカク 菊田胤賢 通稱逸角・兵左衛門・伊兵衛。養父は兵左衛門。慶長十四年

前田利長に越中高岡に仕へて小々將となり、十五年利常に屬して百石を受け、十七年百石を加へ、大坂再役に二万九千餘石を一つを取つた。元和四五年の士難に、二百石菊田逸角とあるもの即ち是で、絶録録には元文二年その子貞一郎祿三の一申斷絶したとある。

キクダチユウエモン 菊田忠右衛門 初めて前田利家に仕へて百石を受け、天正十八年八王子の役に功あり、慶長五年大聖寺の陣には足輕頭を勤めた。子孫相繼いで藩に仕へる。
キクダヒヨウザエモン 菊田兵左衛門 父は忠右衛門。兵左衛門前田利家に仕へて小々將となり、中頃改易せられたが、大聖寺陣の時私に先手に加り、舁を乗越えて鎧疵を得、後召歸されて俸三十石を賜はつた。

キクタン 菊潭 石川郡尿川の源大隈子谷の上なる菊嶽に菊が叢生し、その露が滴り落つるを以て、古來尿川の流を菊水川とも菊潭川とも稱すると大路水經に載せる。
キクチジロベエ 菊池次郎兵衛 菊池九右衛門正信の次子で、宗家市左衛門の養子となつたもの。前田綱紀の侍臣となり、天性謹慎、殊に書を濟くし、尤も侯の筆に擬することに妙を得、爲に往々代書を命ぜられたことがあるといふ。貞享二年歿。

キクチダイガク 菊池大學 實は齋藤小次郎の子。小次郎歿後その妻之を携へて菊池安信に再離した。慶長元年安信の歿した時、利家は大學をしてその後を承けしめ、新千五百石を興へたが、次いで大聖寺の役に従ひ、又大坂の役に馬廻頭として出陣し、元和三年に歿した。

キクチタケカツ 菊池武勝 右衛門入道と

稱した。肥後の人菊池武勝の裔。幼にして兄武平に従ひ、肥前の高來に居たが、武平の戦歿するに及んで筑前・薩摩等を流浪し、永祿の初上杉謙信に屬し、後越中に移つて信長に對し功あつた爲、水見那阿尾を得てその城主となり、佐々成政の越中を領するや之が興力となつた。天正十二年末森の役後、利家は成政の勢力を殺がうと欲し、十一月八日書を武勝に送つて何背の利害を諭した。この交渉は次第に進められて、十三年七月四日には利家から武勝に對して婚和の條件を示し、同月廿八日には葵紙を興へて、遂にその歸順を見るに至つた。末森記にはその前後の事情を詳記するが、信することができぬ。武勝乃ち閉月齋と號し、長子十六郎安信阿尾城一萬石を領した。既にして慶長元年安信は歿したので、利家は齋藤小次郎の子大學をその嗣として、武勝に後見すべきことを命じたが、武勝は入道の身を以て世事に當るを好まずとし、京都紫野に籠居した。慶長十一年歿、法號悟慶禪徹居士。

キクチタケナホ 菊池武直 通稱大學・十六郎。初諱直成。父大學の歿後祿千二百石を襲ぎ、寛永の末年宮・腰町奉行となり、承應・明暦の間檢田の事務を理し、萬治三年馬廻頭に任じ、寛文十年人持組となつた。後公事場奉行・算用場奉行に累遷し、祿増して三千石となり、延寶八年退老、嗣襲して是空と號し、五百石を養老料とした。天和元年歿、年七十三。

キクチタケヤス 菊池武康 幼名彌八郎、後十六郎。實は淺井源右衛門一政の二子で、武直の養子となつたもの。初め實父の配知三

百石を得て前田綱紀に仕へ、萬治元年大小將組に列し、寛文・延寶の間大小將番頭・先簡頭に累遷し、用人を兼ねた。延寶八年武直の二千五百石を襲ぎ、自分知を併せて二千八百石(内五百石與力知)を領し、人持組に列し、天和二年武直の致仕料五百石を受け、元祿四年四百石を増し、次いで御算用場奉行・公事場奉行・江戸御留守居を経て、十二年世子の傳となり、十六年之を免ぜられ、正徳三年十二月退老して秋原又は秋津と號し、隠居料五百石を受けた。享保三年五月十七日歿、享年八十二。

キクチノフツク 菊池信次 通稱九右衛門。父は越中婦負郡城生城主齋藤次郎右衛門。初め菊池武勝の女婿となつてその氏を曰し、慶長三年武勝の次子播磨の後を承けて千石を領し、大坂再役に従うて銃丸に中り創を得、寛永八年歿した。

キクチヤスノブ 菊池安信 通稱十六郎、また伊豆守にも作る。越中阿尾城主菊池武勝の子。天正十三年父と共に前田利家に歸服し、家を襲いで一萬石を領し、九州・關東の兩役に先鋒を勤めたが、慶長元年父に先だちて歿した。

キクチロクエモン 菊池六右衛門 六右衛門は珠洲郡鹿野村菊池氏の通名である。九代の六右衛門は幼名萬吉、後武九郎。算法を四至郡中居の中城豊吉に學んで、算管・通盤・招差・圓理・馳背の諸術に通じた。天保五年歿。子十代六右衛門、天保九年十九歳にして郷里の山野を測量し、安政六年鹿野村肝煎となり、明治四年見廻役に任じ、八年夏手取川溪で病歿した。年五十六。

キク